

市長総括説明から

11月25日、平成23年第5回市議会定例会を開会しました。水道事業会計における支払利息の算定誤りについて報告し、お詫びした後、当面する市政の諸課題ならびに提出議案の主なものについて説明しました。

その概要をお知らせします。**安全に安心して暮らせるまち**

○**円山川緊急治水対策事業**
中郷築堤は9月末に完了、八代排水機場は本年度末完成予定です。

奈佐小橋下流から結和橋までのパラペット設置工事および桃島樋門ゲートポンプ設置工事は着手され、戸島区堤防かさ上げに係る用地買収も順次着手されます。

また、稲葉川土地区画整理事業の区域・周辺は、一部築堤工事が完成しています。

○**災害時要援護者登録制度の見直し**

本市の現在の災害時要援護者登録者数は、あまりに多く、災害時に登録者すべてを支援できない懸念があります。

そこで、災害時に真に支援が必要な方を確実に支援できるように登録対象条件を見直します。改正案は、避難行動支援がないと避難が難しい「避難行動要援護者」と情報伝達などの支援で自らあるいは家族等で避難が可能な「情報伝達等要援護者」に区分しています。

今後、関係団体などの意見を聞き、今年度内に改定する予定です。

○**台風に伴う海岸漂着ごみの処理**
台風12・15号による海岸漂着ごみ・総量5.33トンを処理する予算を10月に専決し、処分しました。

また、港中学校、港西・港東小学校で、環境学習交流会を行いました。漂着ごみ問題は流域全体の問題であり、3校が作成した資料等を市内全小中学校と養父市および朝来市教育委員会にも届けました。

○**豊岡市交通安全計画**
第2次豊岡市交通安全計画

を策定しました。計画では、年間の交通事故死者数を4人以下に、交通事故死傷者数を524人以下にすることを目標にし、今後、実施計画を作成します。

■**人と自然が共生するまち**
○**ラムサール条約湿地登録に向けた動き**

10月に中国で開催されたアジア湿地シンポジウムに参加し、分科会においてコウノトリ野生復帰をめぐる取組みを報告しました。

また、ラムサール条約事務局のアナグ・ティエガ事務局長と面談し、豊岡の取組みをアピールしました。同事務局長からは、「開発と湿地保全の両立の分野で、豊岡は世界のチャンピオン・シティである」との高い評価をいただきました。

今後、湿地登録に向けた動きを着実に進めていきます。○**生物多様性地域戦略の策定**
11月に戦略検討委員会を組織しました。将来にわたって戦略を実践していくため、市内の高校生6人にも委員に参画いただきました。

同戦略は平成24年度の策定

を目指しています。

○**北但ごみ処理施設整備事業**
北但行政事務組合では、10月に土地収用法に基づく裁決を申請しました。

進入道路・敷地造成工事は、11月に入札が成立し、今後組合議会で審議される予定です。

○**斐川用水路の改修**
同水路の市道大門線暗渠部は、老朽化が著しく、緊急的な改修が必要となっています。損傷の著しい箇所は緊急に応急措置を行い、今後、本格的な改修に向け、国・県等関係機関と調整を進めます。

■**持続可能な「力」を高めるまち**
○**山陰海岸ジオパークの推進**

10月に山陰海岸ジオパーク国際学術会議「城崎会議」が開催され、アジア太平洋ジオパークネットワークのイブラヒム・コモオ代表に平成27年の第4回アジア太平洋ジオパークネットワーキングシンポジウムの開催誘致を表明する書面を渡しました。

なお、ジオツアー普及促進とジオガイド利用促進を図るためのジオツアーバス補助制度が大変好評であり、増額の

補正予算を提出しています。

○**観光振興**
観光客入込みは、景気の低迷などにより伸び悩んでいますが、さまざまな誘客促進・情報発信事業の取組みもあり、回復の兆しが見えます。城崎温泉外湯入浴者数は7月以降昨年同期を上回り、10月は出石駐車場の駐車台数も昨年同期を上回っています。

さらなる誘客促進のため、女性に人気の昭文社発行の旅行ガイドブック「ことりつぶ」豊岡版を作成し、平成25年冬の発売を予定しています。

また、南九州の高校の冬季修学旅行スキー体験を神鍋に誘致するためのモニターツアーも考えています。

○**豊岡駅前広場整備事業**
来年3月中旬の供用開始に向けて、駅前交番の移転工事やバス待合所、シェルター工事とともに広場造成工事を行っています。

○**バス交通対策の取組み**
10月1日、全但バス神鍋線の上限200円バス社会実験を始めました。

市では、この社会実験を本

市のバス交通の将来を占う大

変重要な取組みであると捉え、運行事業者や地域と一体となり、利用促進に取り組んでいきます。

○コウノトリ但馬空港の利用

東日本大震災の影響で利用が低迷していましたが、9・10月は、利用率、東京乗継利用者数とも過去最高を更新しました。

しかし、10月30日からのダイヤ変更により利便性が落ち、昨年比べ利用率減となつていますので、再度、従来のダイヤに戻すよう強く求めます。

○但馬空港周辺整備

〔(仮称)空港周辺里山ふれあいの森〕構想案をまとめました。基本方針は、①里山林を適正に整備・保全することにより森林の持つ公益的機能の向上、生物多様性の確保、健康・体験学習機会の確保、企業の森づくりの導入、②里山林整備により発生した除間伐材をペレット化するのとによる木質バイオマスの活用、③林業従事者の育成です。なお、構想策定は平成24年1月末を予定しています。整備期間は平成24年度から26年度までとし、全体事業費

を約19億円と見込んで、合併特例債の活用を考えています。

■未来を拓く人を育むまち

○幼稚園・保育所のあり方

計画の事業進捗状況

寺坂幼稚園と出石幼稚園の来年度再編は延期することとし、平成25年度以降の再編を目指します。

また、五荘幼稚園と奈佐幼稚園の再編幼稚園の新園舎の位置は、検討委員会の意向を踏まえ、現五荘幼稚園の場所に決定し、平成25年度の開園に向けて取り組みます。

なお、学校法人近畿大学弘徳学園は、平成25年度に認定こども園を開園する計画を進めています。これは、本市の幼児教育・保育、子育て支援だけでなく、幼稚園教諭・保育所保育士を養成する短期大学の実習園充実も目的としているため、市の土地を園用地として無償貸付したいと考えています。

■市政の運営

○豊岡市総合計画

後期基本計画の策定

後期基本計画では、さまざまな政策やまちづくりの根底に「いのちへの共感」が流れ

ていることを再認識した上で、「豊岡エコバレー」と「大交流」という新たな戦略を加えた豊岡モデルの実現としてまとめました。

基本計画には、議員各位や市民説明会の意見、まちづくり市民アンケートの結果を可能な限り反映しました。議員から意見のあつたように、賭博性の高い施設がないまちづくりの推進も掲げています。また、より実効性のあるものとするため、新たに5年後の目標値項目を定めています。

○豊岡エコバレー

庁内アクションプラン

豊岡市環境経済戦略を推進し、環境と経済が共鳴する豊岡エコバレーを実現するためには、地域住民、事業所、企業、行政それぞれが自然と共生する大切さを理解し、環境活動を積極的に行う必要があります。

まず市職員が理解し、目指す方向を合わせていかねばならないため、庁内アクションプランを策定しました。豊岡エコバレーの定義を①コウノトリも暮らしの中にあるまち、②エコで市民が豊かになるま

ち、③みんなでエコに取り組みまち、の三つとしています。

○職員給与の改定

人事院は、国家公務員の給与について月例給を引き下げるとの給与勧告を行いました。

本市では、これまでから人事院勧告に準拠して給与改定をしてきましたので、今年も同様に行うこととし、行政職給料表の引き下げをするなどの関係条例の改正案を提出しています。

○但東公園整備事業

「たんとうチューリップまつり」を軸に、年間を通じて集客できる花公園を整備しようとの地元で計画されているものです。花の栽培・販売やイベント開催、観光農園の設置が計画されており、但東シルクロード観光協会を中心に展開されますが、市も必要な支援を行っていきます。

○新庁舎建設事業

現在、庁舎を支える杭の打設、土の掘削・搬出を行い、現本庁舎では曳家移転後の基礎部分を構築しています。

現本庁舎は、12月中旬から躯体を持ち上げ、移転先に建築物を受ける基礎を構築した上

で、2月上旬に曳家を行う予定です。その折には見学会を開催する予定です。

○新庁舎食堂の運営事業者

新庁舎に整備する食堂を障害者の就労支援の場とするとして、障害者の就労機会の拡大と自立支援を図ることとしています。

市内に事務所を設ける障害者通所施設を対象に、10月に新庁舎食堂運営事業者の公募を行い、審査の結果、出石精和園に決定しました。

○定住自立圏構想における圏域形成協定

圏域形成協定の締結を9月から12月に延期し、協議していましたが、さらに延期します。12月には、「但馬こうのとり周産期医療センター検討会」から周産期医療体制の検討報告がなされる予定ですが、その後に市町間の調整時間が必要と判断したからです。

よって、圏域形成協定は、周産期体制の方針が了解され次第、それぞれの議会の議決を経て締結することとし、その後、具体的な事業を定めた「定住自立圏共生ビジョン」を策定したいと考えています。

※市ホームページに「市長総括説明」の全文を掲載しています。